

学校教育目標

『個性をみがき たくましく生きる すはまっ子の育成』

《めざす児童像》

- ㊦ すすんで活動し、認め合う児童
- ㊧ はげまし合い 心身づくりに取り組む児童
- ㊨ まなびを深め、高め合う児童

① 【すすんで活動し、認め合う児童】における顕著な結果

『周りの友達は、自分のよいところに気付いてくれている。』

児童 肯定的な回答（とてもそう思う・そう思う） 前期 70%⇒後期 77%
 保護者 前期 83%⇒後期 83%

『自分と違う考えの人とも協力して活動ができる。』

児童 肯定的な回答 前期 75%⇒後期 80%
 保護者 前期 79%⇒後期 82%

『周りの友達は、自分の良いところに気付いてくれている。』の項目では、保護者の結果に変化はないものの、肯定的な反応が多く、児童は前期より7%の向上が見られます。これは、今年度継続して各学級が帰りの会などで意識的に取り組んでいる「友達のいいところ探し」の活動が関係していると考えられます。

また、『自分と違う考えの人とも協力して活動ができる。』の項目では、児童・保護者共に前期よりも向上が見られます。お互いの良さや個性を尊重できるようになってきたということは、各学級で学習活動において話し合ったりお互いの考えを聞いたりする活動を意識して取り入れている成果だと考えられます。この二点の項目から、本校がここ数年取り組んできた自己肯定感の向上への取組が関係していることが考えられます。今後さらに伸ばしていくためには、誰もが良いところをもっているという前提に友達との人間関係を考えていけるような取組を充実させていく方法を検討していきます。自己肯定感が向上することで、他者理解も進むことが考えられますので、これらの活動が継続して進むことで校内での「いじめ」減少にもつながっていくと思われま

② 【はげまし合い 心身づくりに取り組む児童】における顕著な結果

『自分から元気なあいさつをしている』

児童 肯定的な回答 前期 65%⇒後期 73%
 保護者 前期 78%⇒後期 73%

『係や委員会の仕事に責任をもって取り組んでいる』『整理整頓を心がけ、そうじに一生懸命取り組んでいる』

児童 肯定的な回答 前期 80%⇒後期 87% 肯定的な意見 前期 87%⇒後期 82%
 保護者 前期 91%⇒後期 91% 前期 59%⇒後期 64%

『自分から元気なあいさつをしている』では、前期は65%と例年に比べても低い値だったものの、後期は73%と例年に近い数値まで向上しました。あいさつは、全校で重点的な取り組みとして、正門での朝のあいさつ運動や小中合同のあいさつ活動などに取り組んでいます。また、昼の給食中の放送では担当する委員会があいさつのよかった人を紹介する活動に取り組む、校内でもあいさつの声が増えているのが感じられます。今後も「よろしくお願いします」「ありがとうございました」「さようなら」など日常的なあいさつを自分から言えるように学校全体で取り組んでいきます。

また、『係や委員会の仕事に責任をもって取り組んでいる』では、前期から7%も上昇しています。しかし、『整理整頓を心がけ、そうじに一生懸命取り組んでいる』では肯定的な反応が5%減少しているとともに、保護者の評価も昨年度同様60%台と低い数値となっています。責任をもって取り組む姿勢を評価しつつ、自分やみんなが使う場所を清潔に維持していくことができるように全校で清掃への取り組み方を考えていきます。

③【まなびを深め、高め合う児童】における顕著な結果

『学習内容を理解するために自分から考えて取り組んでいる』

児童 肯定的な回答 前期 77%⇒後期 78%

『自分の考えを積極的に伝えようとしている』

児童 肯定的な回答 前期 67%⇒後期 70%

『黒板の内容や自分の考えをメモに取り、自分なりに工夫してノートを書いている。』

児童 肯定的な回答 前期 75%⇒後期 79%

上記の3項目の反応からは、自ら考えて学習に取り組むことに関する児童の意識が、どれも高まっていることがわかります。保護者のアンケート結果としては、どの項目も前期後期とも 50～60%台で低い数値となっているのですが、児童は自分で考えて必要な学習に取り組んだり、計画を立てて取り組んだりすることに関して少しずつ意識が高くなっていることがわかります。今年度中学3年生が6年生に学習計画の立て方についてアドバイスをする時間を設けました。小中一貫校のメリットを生かし、中学生になった時のギャップを埋める取り組みでしたが、児童の自主的・計画的に学習する力を高めていくことに役立ったと考えています。

今後もギガタブを有効活用することはもとより、グループで話し合ったり自分の考えをしっかりと見つことができたりするように授業改善を進めていきます。

【自由記述より】※多数あったご意見を紹介します。

・児童より

- もっとみんなが気持ちのよいあいさつをすればいい学校になると思う。(大多数)
- 中学生との交流だけでなく、他学年と交流できる時間を増やすといいと思う。(大多数)
- みんなが楽しめる行事を増やしてほしい。
- ロッカーが小さいので物が入らなくて困る。

・保護者より

- 音楽発表会をギガタブを利用して視聴できるようにしてほしい。
⇒今年度は行事や感染症流行などの都合上、分散開催としましたが、次年度は一括開催を計画していますので、保護者の皆様にギガタブを通してご覧いただける教育活動を増加していきたいと考えています。
- 近年の猛暑に対して不安を感じています。
⇒次年度から、千葉市内の中学校の体育館へのエアコン導入工事が始まります。中学校（部活動の関係）から随時工事が始まっていく予定です。二中の工事完了後は小中一貫校の利点を生かし、相互に利用できる機会を増やせるように進めてまいります。
- 教職員の人数が足りていないのではないかと。補助にまわる職員がもっといた方がいいと思う。
⇒本校だけの問題ではないのですが、全国的に小学校は慢性的な教員不足であり、担任の数すら足りていない学校も多数あると聞いています。その中で、本校は小中一貫教育校として二中の英語教諭が英語の学習を担当していたり、理科・音楽・体育（一部）の専科教員による授業を実施したりしています。学年内で交換授業を実施したり、授業のない時間の専科教員が低学年のサポートに入ったりするなど工夫して取り組んでいます。
- 日々頑張ってくれている先生が多く、感謝しています。
⇒ありがとうございます。そのようなお言葉が我々の励みになります。これからも小中9年間のつながりを大切にしながら、小中の教職員でお子様を見守ってまいります。